

第39代 本部長に青島忠俊1等海佐着任

私が術科学校で勤務している時の校長は「教育を効率化するのには簡単で、教育についていけない者を切り捨て、自ら学ぼうとする者が自学自習できる環境を構築すれば、教官等は相当数削減できる。だが、それでは本当に良いのか？数字だけみれば一人の学生のために教官3人が課業時

間の外に補備教育をするのは非効率といえる。だが、それによって学生能免にならずに部隊で活躍するのであれば、海自にとってプラスである。そもそも人を育てるといえるのは非効率なもので、効率を最優先にする目的を見失う。」と言っていました。教育期間において問題の多かった学生が突然変異することが良くありますが、理由を訊くと「教官の学生に対する誠実な態度」や「そこまで学生のためにやってくれるのか」という熱意に心を動かされたとか回答する者が多いです。同様に募集対象者（とご家族）が入隊を決心した理由や企業が退職自衛官の採用を考え

る理由も「広報官の素晴らしい人柄に接して、こういう人になりたいと思った」「援護センターから説明にきた隊員と話をし、こういう隊員がいる組織から我が社にきてもらいたい」というような「対面した隊員の印象」が大きいようです。自衛隊長崎地方協力本部としては、このように厳しい状況だからこそ、募集、就職援護、自衛隊に対する理解促進において、効率的ではないかも知れませんが「人」のつながりが更に重要になるものと考えています。おかげ様をもちまして、既に地域の皆様との「かけはし」が架かっていることが多いですが、皆様が渡りたいと思える、時代にあった「かけはし」であるのかを常に考え、信頼される自衛隊長崎地方協力本部を目指して、各事務所等を含め、職員一同尽力していく所存ですので、引き続きよろしく願います。

皆様には、平素から自衛隊長崎地方協力本部の業務に對しまして、ご理解と多くのご支援を賜り、御礼申し上げます。



発行所
自衛隊長崎地方協力本部
長崎市出島町2番25号
TEL 095-826-8844



長崎地本公式HP



長崎地本公式X



長崎地本公式Instagram

第38代佐々木昌貴本部長離任式



見送りをする防衛支局の皆さんと自衛隊長崎地方協力本部一同

令和8年6月8日付で、第38代自衛隊長崎地方協力本部長 佐々木1等海佐は、市ヶ谷地区に異動となりました。佐々木本部長は、統率方針「県民とのかけはしになる」、要望事項「前進」を掲げ、令和6年8月から約1年10ヶ月の間勤務され、着任以来、各協力団体等と緊密な連携を図り、防衛省・自衛隊に対する県民の理解促進に努めるなど、自身の要望事項である「前進」を率先し部員達に明示しました。

また、募集業務においては、厳しい募集環境が継続する中、学校訪問等を精力的に実施するとともに、各種イベントにおいても、自らが陣頭に立ち、自衛隊の魅力発信に大きく尽力しました。さらに就職援護業務においては、優良な求人情報の獲得、退職隊員のニーズに合致した就職援助の推進、退職隊員の再就職基盤を拡充されるとともに、予備自衛官業務においては、予備自衛官等との連携強化を図るため、予備自衛官の隊員自主募集等を推進し、充足数及び訓練出頭率の両面目標達成に尽力しました。離任に際し、佐々木本部長からは「皆の頑張りにより、自衛隊長崎地方協力本部は確実に進歩している。この進歩を止めることがないように、更なる意識改革を期待する。」と部員を鼓舞しました。最後に、部員の見送りを受け、佐々木本部長は自衛隊長崎地方協力本部を後にされました。



援護課長より記念品贈呈



副本部長と総務課長と挨拶をする佐々木本部長



記念撮影



護衛艦「のしろ」修理地回航における艦艇広報



■ 来場者の様子



■ 水辺の森公園から撮影した護衛艦「のしろ」の全貌



■ 護衛艦「のしろ」

護衛艦「のしろ」（艦長 小泉正芳 2等海佐）は、令和8年6月7日（日）から6月8日（月）までの間、長崎港出島岸壁へ寄港した。

護衛艦「のしろ」は、ステルス性や省人化を取り入れた最新鋭の護衛艦であるFMM3番艦として、三菱重工長崎造船所で建造され、令和4年に就役。今回、修理地回航に際し、佐世保港から体験航海を実施し、長崎市での艦艇公開を実施した。

艦艇広報においては、自衛隊を知ってもらうために、ガラボン抽選会や制服試着体験等、各種イベントを実施し、多くの方が立ち寄られ、自衛隊をより身近に感じていただく機会となった。また、護衛艦「のしろ」の企画で「艦隊これくしょん」（軍艦をモチーフにしたキャラクターが活躍する人気ゲーム）とのコラボや、アンケート回答者に対する艦内特別公開が実施され好評であった。

県外からも多くの来艦者があり、今回の艦艇公開における来場者数は2日間で約2100名にのぼった。

来場者からは「初めて護衛艦に乗り楽しかった」「不思議な形をしていて見ごたえがある」といった感想が聞けた。

自衛隊長崎地方協力本部は、今後も皆様への自衛隊に対する信頼の獲得に努め、一人でも多くの志願者の増加に繋がるよう引き続き積極的な募集広報に努めていきます。

（募集課広報班）



■ 広報ブースでのガラボン抽選会の様子

第22航空隊航空機体験搭乗



■ 募集対象者を乗せ離陸しようとするSH-60J



■ SH-60Kの前で集合写真

自衛隊長崎地方協力本部は、今後もこのようなイベントを通じて、自衛隊に関心を持った若者が自衛隊を志すきっかけとなり、より多くの志願者を獲得できるよう、引き続き積極的な募集広報活動に努めていきます。

（募集課広報班）

当日は募集対象者21名が参加し、はじめに海上自衛隊及び大村航空基地の概要説明や職種が紹介されたのちに、搭乗員から、搭乗時の注意事項等の説明を受けて、体験搭乗が開始された。

体験搭乗においては、間近で見るヘリコプターの迫力に驚きの表情を浮かべながら機内に搭乗する様子や、初めての体験搭乗に緊張気味な様子が多く見られた。体験搭乗以外の時間は、庁舎の屋上から航空機が離着陸する様子をみたり、隊員に様々な質問をしたり、懇談をしたりと楽しんでいる様子であった。

参加者からは「楽しかった。また乗りたい」「他の航空機にも乗ってみたい」と自衛隊への興味関心が高まったような感想が聞かれた。



■ 体験搭乗の様子



■ 飛行を終えてスポットに進入するSH-60K



■ T-4の前で記念撮影する募集対象者

■ 体験喫食の様子

■ 陸自装備品の説明を受ける様子

自衛隊長崎地方協力本部(本部長 青島忠俊1等海佐)は、令和8年7月29日(水)及び令和8年8月6日(木)、7日(金)の3日間、西部方面総監部が実施する三自衛隊統一募集広報へ募集対象者48名を引率した。

本イベントは、募集対象者に自衛官の姿とその部隊を見学いただき、それぞれの自衛隊への入隊意欲を高めてもらうことを目的として毎年実施されている。

7月29日(水)は、航空自衛隊芦屋基地において、練習機として使われるT-4の見学や、体験喫食、そして隊員との懇談を実施した。8月6日(木)、7日(金)は、佐世保倉島岸壁において、護衛艦「のしろ」を見学した後、海上自衛隊佐世保教育隊において新隊員の居住区の見学及び陸上自衛隊崎辺分屯地において、水陸機動団の保有する車両や装備品の展示、高機動車の体験試乗などを実施した。そして最後に海上自衛隊大村航空基地において、SH-60Kなどの航空機等装備品の見学や隊員との懇談を実施し、充実した1日となった。

本募集広報に参加した高校生からは「いろんな職種があり興味があった。」「とても楽しかった。合格できるような勉強を頑張ります。」「など入隊意欲の高い感想が聞かれた。

自衛隊長崎地方協力本部は、今後もこのようなイベントを通じて、自衛隊に関心を持って若者が自衛隊を志すきっかけとなり、より多くの志願者を獲得できるよう、引き続き積極的な募集広報活動に努めていきます。(募集課広報班)



■ 護衛艦のしらの説明を受ける募集対象者



■ 佐世保教育隊の居住区見学



■ SH-60Kの説明を受ける様子

自衛隊ガールズガイダンス及びジョブガイダンスを開催

自衛隊長崎地方協力本部(本部長 青島忠俊1等海佐)は、令和8年7月18日(土)、自衛隊長崎地方協力本部(長崎市)及びサテライトブース「MIRAI★BASE」(佐世保市)において、自衛隊ガールズガイダンスを開催した。

本ガイダンスは、女性限定の自衛隊ガイダンスで、①陸海空女性広報官による募集相談、②制服試着、模擬コクピット体験、動画視聴などの広報展示コーナー、③陸海空各部隊等から派出して頂いた女性リクルーター等との懇談コーナーを開設し、女性を持つ自衛隊入隊への不安を解消し、自衛隊の魅力を伝えることを目的として計画した。

当日は予想以上の来場者を迎え、保護者を含め長崎市では22名、佐世保市では19名と、急遽、懇談コーナーを増設するほどの盛況ぶりであった。



また2日後の令和8年7月20日(月)に自衛隊長崎地方協力本部(長崎市)及び大村地域事務所(大村市)で開催した自衛隊ジョブガイダンスでは性別年齢関係なく自衛隊入隊に興味・関心がある方を対象にしたガイダンスで、進路を決める上で、自衛隊を選択肢の1つとしてもらうよう魅力発信の追求を目的として計画した。こちらにも多数の方の来場をいただき、保護者を含め長崎市では14名、大村市では20名の方に、広報官及び各部隊から派出して頂いた隊員から自衛隊の魅力を伝えることができた。



予備自衛官補辞令書交付式



令和8年7月25日(土)、自衛隊長崎地方協力本部(本部長 青島忠俊1等海佐)は、本部庁舎において予備自衛官補に対する辞令書交付式を実施した。本交付式には、7月15日付で採用された7名(技能5名、一般2名)が出席した。厳粛な雰囲気の中、青島本部長から採用者一人ひとりに辞令書が手渡され、それぞれが緊張した面持ちで辞令書を受け取った。その後7名全員が力強く宣誓を行うと、青島本部長は「皆さんが教育訓練を無事に完遂され、日も早く予備自衛官として我々と共に任務に従事することを祈念します」と激励した。

予備自衛官補は、自衛官未経験者を所定の教育訓練(技能は2年以内に10日間、一般は3年以内に50日間)を経た後、予備自衛官として任用する制度である。



予備自衛官補の皆さんとの記念撮影

自衛隊長崎地方協力本部は、予備自衛官勢力の安定的確保に資するため、予備自衛官補の身上把握及び教育訓練出頭調整を行いながら、将来、予備自衛官に任官してもらえるように支援します。

(援護課予備自衛官班)



青島本部長から辞令書の交付を受ける予備自衛官補



宣誓する予備自衛官補

対馬 港まつり

対馬新第一陸曹長は、令和8年8月1日(土)、2日(日)に対馬市厳原町で実施された「対馬厳原港まつり」において、対馬に駐在する陸海空の部隊と共同して自衛隊広報ブースを開設し、自衛隊をPRした。

「対馬厳原港まつり」は、対馬市厳原町東里の厳原港東浜ふ頭をメイン会場に毎年行われるイベントで、ステージイベントをはじめ、厳原市街地では朝鮮王朝が江戸時代に日本に送った外交使節「朝鮮通信使」の再現パレードなども行われる対馬市最大のまつりである。

対馬駐在員事務所と在島三自衛隊との合同による広報ブースにおいて、制服試着体験、VR体験、缶バッジ作成体験、「南極の水」展示等を実施したほか、海保巡視艇と並んでのミサイル艇「おおたか」の一般公開や、海上自衛隊小月教育航空群所属の練習機「T-5」による飛行展示が実施され、多くの来場者で賑わった。

対馬駐在員事務所は、今後も在島三自衛隊部隊と緊密に協力しながら、対馬市内の様々なイベントに参加し、島民の皆様は、これまでに以上に自衛隊への理解を深めていただけるよう努めていきます。

(対馬駐在員事務所)

ミサイル艇「おおたか」の一般公開

「朝鮮通信使」行列

合同広報ブースの様子

南極の水を楽しむ様子

人事関連

令和7年度優秀広報官褒賞

令和8年6月25日付

◎陸上幕僚長褒賞
大村地域事務所 山田 達也
2等海曹

◎西部方面総監褒賞
佐世保出張所 竹内 勇
2等空曹

◆昇格 令和8年4月1日付
◎本部 援護課
防衛事務官 丸谷 二郎

◆昇任 令和8年7月1日付
◎本部 募集課
【2等海尉へ昇任】
岡田 南

◎本部 募集課
【准陸尉へ昇任】
浦松 功将
上五島駐在員事務所長

◎本部 募集課
【陸曹長へ昇任】
佐世保出張所 豊嶋 大希
佐世保出張所

◎本部 募集課
【2等陸曹へ昇任】
丸山 健志郎
本部 募集課

褒賞・昇格・昇任
おめでとーございます

◆転入 令和8年5月15日付
◎第22航空隊から
本部 募集課 広報幹部へ
3等海尉 岡田 南

◆転入 令和8年6月8日付
◎防衛省情報本部(市ヶ谷)から
自衛隊長崎地方協力本部長へ
1等海佐 青島 忠俊

◆転入 令和8年8月1日付
◎第16普通科連隊(大村)から
大村駐屯地援護センターへ
2等陸尉 中村 茂

◎西部方面会計隊(健軍)から
本部 総務課へ
3等陸曹 山口 輝光

◎第102高射特科隊(竹松)から
本部 募集課へ
2等陸曹 大川 美樹

◎第1空挺団後方支援隊(習志野)から本部 募集課へ
2等陸曹 三ヶ島 宏介
◎西部方面後方支援隊(竹松)から
島原地域事務所へ
陸曹長 溝口 将史

◆転入 令和8年8月26日付
◎第3哨戒防備隊(おおたか)から
佐世保出張所へ
海曹長 宮崎 忠到

◆新規採用 令和8年8月1日付
◎本部 援護課へ
非常勤隊員 川瀬 錠二

◆転出 令和8年5月15日付
◎本部 募集課 広報班長から
下関基地隊へ
1等海尉 駿河 健太郎

◆転出 令和8年6月8日付
◎自衛隊長崎地方協力本部長から
市ヶ谷地区へ
1等海佐 佐々木 昌貴

◆転出 令和8年8月1日付
◎本部 総務課から
西部方面会計隊(竹松)へ
陸曹長 江籠 智美

◆退職 令和8年7月31日付
◎本部 援護課
1等陸曹 蒲川 敏之

◆定年退職 令和8年7月12日付
◎本部 募集課
准陸尉 佐藤 一郎